コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年6月7日

BMJ:

新型コロナ感染から2年後までの病状経過：

一般住民対象縦断的コホート調査

【松崎雑感】

ワクチン未接種で感染した人々の2割はロングコロナになるという調査成績です。症状では、嗅覚味覚障害、労作時倦怠感、呼吸困難、集中力低下、記憶力低下が多く見られました。以前の報告と合わせると、ワクチン接種者の方が、感染しても、ロングコロナのリスクは低いと言えるようです

松崎道幸　道北勤医協ながやま医院　matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

新型コロナ感染から2年後までの病状経過：一般住民対象縦断的コホート調査

Ballouz T, Menges D, Anagnostopoulos A, et al. Recovery and symptom trajectories up to two years after SARS-CoV-2 infection: population based, longitudinal cohort study. *BMJ*. 2023;381:e074425. Published 2023 May 31. doi:10.1136/bmj-2022-074425

目的：新型コロナ感染後の病状の長期的経過を調査した。

方法：人口ベース縦断的コホート調査。スイス、チューリヒ郡の一般住民。ワクチン未接種で感染した成人1106名および感染しなかった628名。感染から12，18，24週後の健康状態および自覚症状、感染から6か月後の自覚症状の保有率を未感染者と比較した。

結果：ワクチン未接種で感染した人々の22.9%（20.4～25.6%）は、感染から6か月の時点で体調が完全に回復していなかった。体調未回復率は、12か月後に18.5%、24か月後に17.2%まで減少した。感染から24か月までに、17.2%の人々が完全に体調が回復し、68.4%の人々は徐々に回復途上にあった。

しかし、5.2%は体調が悪化し、4.4%は体調の改善と悪化を繰り返していた。

新型コロナ関連症状の保有率と重症度は、時間とともに低下していたが、24か月の時点で18.1%が何らかの症状を訴え、8.9%は6か月ごとのチェック時点のすべてで何らかの症状を訴えていた。

12.5%の人々は症状の消失と再燃を繰り返していた。感染から6か月の時点で、感染者は未感染者よりも17.0%有意に症状が多かった。

感染者は未感染者よりも2～10%症状が多かった。ちなみに嗅覚味覚障害が9.8%、労作時倦怠感7.8%、倦怠感5.4%、呼吸困難7.8%、集中力低下8.3%、記憶力低下5.7%に見られた。

結論：

ワクチン未接種で感染した人々の18%は、2年後にも新型コロナ関連症状が続いていた。ロングコロナに対する適切な治療を検討する必要がある。また、ロングコロナの症状の適切な経過観察プロトコルを確立する必要がある。